主日礼拝　２０２１年1月１０日（日）
題　『力づけてやりなさい』
テキスト：ルカによる福音書２２章：３１～３４節

今日の聖書個所の小見出しには「ペトロの離反を予告する」とつけられています。
イエスの弟子のペトロが十字架を前にして、「イエスを知らない」と三度拒んだことを預言することが、今日の聖書の個所の続きにあります。
読んでみます。
33:するとシモンは、「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」と言った。 34:イエスは言われた。「ペトロ、言っておくが、あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう。」

ところで、私事ですが、１０代のころ大阪に住んでいました。以前お話しした事があるのですが、通っていた工業高校の教科書に載っていた話を思い出します。ロシアの文豪チェーホフ、日本では「３人（さんにん）姉妹」という小説が有名ですが、通っていた高校の教科書に短編小説の「学生」とう話が載っていました。３ページほどの短い話でした。概要は、ある貧しい神学生が学校から帰る途中、彼は、百姓の寡婦たちが焚き火をしているところに出くわします。彼も焚火にあたりながら、使徒ペトロもちょうどこんなふうに寒い夜に焚火にあたったのだろうと思って、女性たちに,ペトロが鶏の鳴くまでに三度イエスを拒んだ話をしたのです。イエスの弟子であることを三度否定したペトロが、祭司長の中庭から出て、身も世もあらず泣きだした、というところまでくると、その場に居合わせた寡婦たちの頬を伝って大粒の涙がはらはらと流れ落ちるのを彼は見た、という内容でした。

授業の中で担当の先生が「この話には深い意味があるのだ。」と言っておられたその先生の姿がとても印象的で、小説の深い内容は分からなかったのですが、先生の表情や話ぶりから、これは大切なことなのだと思ったことはしっかり記憶にあるのです。振り返って見れば、仏教の家で育った私が、教会に通うようになる前に聞いた最初の聖書の話だったと思います。
高校を卒業して、その先生にはお会いしたことはありませんが、感謝しなければと思わされます。自分の生きて来た歩みを静かに振り返れば、今につながる過去の出来事を意味深く受け止めることができるのかもしれません。先週の新

年礼拝にも、幼児時代に洲本教会に来たことがあると言われる女性の方がお母さまと一緒に来てくださいました。幼稚園の時、教会に来て見せてもらった本のことを覚えて語っておられました。

感銘を受けると共にこうやって見えない所で様々な形で福音の種はまかれて行くのだと思わされたのです。教会につながる者たちの働きは神さまに覚え続けられ、一つとして無駄になることはないのだと思わされます。

ところで、今日の聖書の個所では、主イエスは自分を「知らない」と拒むであろう弟子のペトロのことを知っていて、あらかじめペトロに語っておられるのです。

31:「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。」シモンとは、ペトロの親しい呼び名です。故郷で呼ばれていた呼び名です。懐かしい呼び名、それゆえ心の深い所にある呼び名であると思います。その名をイエスさまは、ご存じで親しく呼ばれたのです。わたしは家族からは名が達雄ですので幼い時から「たっちゃん」と呼ばれて育って来ました。今までも姪からも会えば「たっちゃん」と呼ばれるのです。呼ばれるのです。皆さんに中にも、そのような経験をされた方、されておられる方もおありだと思います。

さて、ここでサタン・悪魔がペトロが信仰を失うようなことを試みるということをイエスさまは預言しているのです。農作業で小麦がふるわれるように信仰が試されるということです。「神に願って聞き入れられた。」とありますが、神さまが、サタンがペトロの信仰を試すのを許可された、許されたということです。

ちなみに日本語訳聖書の中にはこの「聞き入れられた」との訳を入れてないものもあります。現実的には、ペトロだけではなくわたしたちも、長い教会生活、信仰生活の中では自分の信仰が試される場面があるものです。

しかし、振り返ればすべては神さまの大きな御手の中にあると思えるのです。

イエスさまはペトロに言われました。

「32:しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」と。

わたしはこのイエスさまの言葉が大好きなのです。心深くに沁み込んでくる御言葉です。イエスさまが、十字架を前にして、愛するペトロのために、弟子たちのために祈ってくださっていたということなのです。信仰がなくならないようにと。たとえ一度信仰を失ったとしても、イエスさまがペトロのために祈ってくださっていたのです。

弟子たちに、ひいてはわたしたちに先立つイエスさまの祈りがあったのです。先行する主イエスの祈りがあるのです。神さまがそのことも用意してくださったのです。

ですから、わたしたちは、神さまを敬いながら、恐れず、前を見て生きればよいのです。主イエスは、今でも天上で祈ってくださっている方なのです。

ローマの信徒への手紙 8 章 26 節にも

「26:同様に、“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです。」とあります。

イエスさまはペトロをいつくしんで「あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」と言われました。わたしは洲本教会に来させて頂いて、木曜日の「夜の祈り会」でこの言葉をイエスさまからの直接の呼びかけだとして聞きました。

「あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」神さまの元に戻って来た者たちは兄弟たちを力づけること、励ますことができるのです。主イエスはわたしたちや世界中のすべての苦しみや　悩みの中に生きる人々のことを覚えて祈ってくださっていることを年の始めに覚えたいのです。

教会に集ったわたしたちは、互いに力づけ合う、励まし合う間柄として招かれているのです。これから行う聖餐式において、主イエスの恵みによって、お互いに力づけあうことの出来る間柄であることを確認し合えるのです。

◆ペトロの離反を予告する

31:「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。

32:しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

33:するとシモンは、「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」と言った。

34:イエスは言われた。「ペトロ、言っておくが、あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう。」

33:するとシモンは、「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」と言った。

34:イエスは言われた。「ペトロ、言っておくが、あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう。」